

〔読者の声〕

研究会理事になって

All about SWINE 50, 27

私が豚に最初に接したのは、約30年前大学生時代の研究室で、豚の糞から未消化物を取り出し、再度豚に給与する研究を手伝った時です。その研究者は、現在、東京農業大学の客員教授です。最初は、糞をかき集めて気が狂ったおっさんではと思いましたが、熱心に消化の原理や栄養バランスについて力説し、その時自分の未熟さ（無知）を痛感しました。その後、県に就職し、農業大学校で、学生と共に食品残渣飼料により、愛情を注ぎながら肥育豚（LWD）を飼育すると約150日前後で約110kgになり、豚飼いは簡単で楽な

稼業だと思いました。しかし、家保職員として実際に一般養豚農家を訪問すると、肺炎や下痢により肥育豚の発育が遅れており、飼育環境も劣悪な農家も見られ残念でした。豚本来の発育能力を最大限発揮させ、一般消費者に安心・安全な豚肉を提供するには、改めて当研究会の重要性を感じている次第です。何事も理想と現実には大きな差はありますが、少しでも養豚農家が良い方向に向かうために、微力ながら努力するつもりです。

（茨城県畜産センター養豚研究所・作田 敦）